

■有識者会議における意見と対応

追加資料

区分	有識者意見	主な取組状況	今後の対応
理解促進 普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○ ケアラー支援の必要性を分かりやすい形で周知していく必要があり、条例の制定を考えるべき。 ○ 「家族が介護をするのが当たり前」という認識があると思われるため、道民全体への理解の促進が重要。 ○ 相談先がわからない場合が多いと思われ、相談窓口の十分な周知が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 条例制定に向けた作業 □ パブリックコメントの実施 11月29日から12月28日まで □ 関係機関へ意見聴取 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援機関 ・障がい者支援機関 ・関係団体(医療・福祉・教育等) 	<p>今後も引き続き、普及啓発の取組を実施</p>
早期発見 相談支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な相談窓口(相手)の存在や対応が重要。 ○ ケアを必要としている家族を、公的サービス等の利用に繋げることが重要。 ○ ヤングケアラーの場合は、子どもへの支援の視点のみならず、支援が必要な大人の問題としても捉えるべき。 ○ ヤングケアラーは学校での発見が重要で、学校での認識をさらに深めることが必要。 ○ 全てを学校に担わせることは難しいため、地域が一体となった支援体制を目指すべき。 ○ スクールソーシャルワーカーの配置増が望まれるほか、配置方法や学校内の役割分担の見直しなども考えられるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● シンポジウムの開催 11月18日(オンライン開催) 対象者:道民、市町村 相談支援事業者等 見逃し配信(You Tube) ● 情報発信の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの情報掲載 ・ツイッター ・ブログ ・メールマガジン ・フリーペーパー など 	<p>今回、第6回会議において御意見いただきたい事項</p>
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早期発見のためには、気づいた人や発見した周りの人が関係機関や相談窓口につげられる地域づくりが必要。 ○ 行政や一般住民だけの見守りだけでなく、地域の身近な企業を取り込んでいくことが必要。 ○ カフェやサロンなど、住民主体による、地域コミュニケーションの場を作っていくことが必要。 ○ ヤングケアラーに関しては、学校と福祉関係者の連携強化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓発リーフレットの作成・配付 <ul style="list-style-type: none"> ・道庁ロビー ・市町村 ・相談支援機関 ・学校 <p>など</p>	<p>第7回会議以降において御意見いただきたい事項</p>